

小児科この一年

小児科医長 佐藤 敬

診療スタッフ

平成16年1月から3月までは室野医長、佐藤医員、加藤医員、土田研修医の4人体制で診療にあたりました。4月からは土田研修医が網走厚生病院に転出し、代わって旭川医科大学から太田研修医が赴任し、また室野医長が診療部長、佐藤医員が小児科医長となり、気持ちも新たに新年度を迎えることとなりました。さらに12月には加藤医員が士別市立総合病院に転出したのに伴い熊谷医員が同病院から赴任し、女性スタッフが二人となり華やかな陣容で診療にあたっております。

外 来

一般外来は基本的に毎日午前・午後とも2診体制で行い、主に室野、佐藤、加藤（11月まで）、熊谷（12月から）が担当しています。一ヶ月検診は熊谷、太田が担当して従来通り行っています。また10月からのインフルエンザワクチン外来は昨年非常に混み合い、待ち時間が数時間に及ぶこともあったため、今年から予約制を取り入れて行いました。さらに来年度からは三種混合ワクチン接種を当院でも行うことが決まり、予防接種を受ける患者数の大幅な増加が予想されるため、これまで行ってきた麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜなどのワクチン接種も含めた予防接種外来を新たに設け予約制で行うことを検討しております。専門外来は旭川医大小児科より出張していただき、内分泌外来（伊藤助教授）、神経外来（田中講師）、心臓外来（津田講師）をそれぞれ月1回行っております。

外来患者数は、平成16年12月累計で一日平均96名であり、前年101人とほぼ同等の患者数でした。

病 棟

病棟は主に佐藤、加藤（11月まで）、熊谷（12月から）、太田が診療にあたっています。平成16年度の入院患者数はのべ803人で、一般小児618人、新生児185人で昨年と比較すると新生児入院例の

増加が特徴的でした。一般小児では例年通り肺炎、胃腸炎、咽・扁桃炎、気管支炎の順で患者が多くみられ、新生児では新生児黄疸86人をのぞけば、低出生体重児・早産児が53人と例年より多く、また新生児一過性多呼吸症・エアリーク・胎便吸引症候群などの呼吸障害が31人と増えており、クベース管理を必要とする患者数は2年前の約3倍になっています。

カンファレンスなど

入院患者については月曜日から金曜日まで毎日（火・金曜日は午後一時半より、その他の曜日は夕方より）スタッフ全員でカンファレンスを行い、その後総回診を行っています。また翌月の各医師の予定、学会発表の予行会、小児科診療全般に関するカンファレンス、そして産婦人科とのハイリスク妊娠カンファレンスをそれぞれ月一回行っています。このほか市立士別総合病院小児科との合同の抄読会を毎月一回行っています。

研究・教育活動

論文は1編、学会活動は4演題発表しました。また、室野診療部長が上川北部病診連携協議会研修会で「小児の感染症と予防接種」、佐藤医長が救急フェスタ、名寄市民公開講座で「小児の救急の病気」について講演を行いました。

教育に関しましては名寄短大看護学科、上川北部医師会准看護学校で小児科の講義を室野・佐藤が担当して行っております。

おわりに

近年、北海道内の総合病院における小児科医師の撤退や分娩を取り扱う施設の減少等、子供たちの健やかな生活を脅かすニュースが絶えませんが、今後も明日の日本を担う子供たちによりよい医療を提供できるよう日々努力していきたいと思っております。